様式２

令和５年度　不登校支援研究校　報告書　東野小学校

１　学校の課題

※データ等を基にした学校の課題

自己表現することが苦手で孤立しがちな児童や環境になじみにくい児童が、家庭や学校で不安を抱えたまま生活し、登校を渋ったり欠席が続いたりする状況がある。

２　研究主題

個に応じた多様な場を提供する環境づくり、およびそれぞれの形で社会的自立を目指す児童を育成する指導・支援のあり方

３　重点取組

※１の課題解決に向け、重点的に取り組む項目

(1)　不登校支援に関する ICT 等の活用
(2)　個別の支援計画等に基づく支援
(3)　不登校等の早期発見及び支援

４　具体的な取組

※３の具体的な取組

(1)　児童の意思決定と目標設定の場としてのフレキシブルな時間割の設定
(2)　不登校対策推進委員会（週１回）
(3)　職員間における「情報共有シート」の活用

５　検証結果

※検証方法および結果

【検証方法】
ふれあい活動記録及び情報共有シートより

【結果】
- 不登校児童 21 名（内、ふれあいひろば 11 名）
- 不登校児童（その保護者）に関しては、7 名が SC、12 名が SSW に繋げることができた。
- （両方兼ねている場合も有）
- ふれあいひろばに関わる全児童について、自クラスとタブレット端末を繋ぎ、オンライン授業によって、教室の様子を確認したり、授業を受けたりすることができた。

６　研究成果

※成果・課題等

○成果

・　ふれあいひろばに関わる児童の意思決定と目標設定を週に一度行うことができ、児童自身が授業を受ける場所、方法等を選ぶことができた。
・　ICT 活用において、ふれあいひろばと教室を繋ぐタブレット端末の設定ができており、児童が自分のペースで、オンライン授業を受けることもできた。
・　年度当初、ふれあいひろばに関わる児童１名が、10 月上旬頃に担任との連携のもと、自クラスに戻ることができた。
・　SSW との連携により、ふれあいひろばに関わる児童２名が特別支援学級の見学に行く等、来年度を見据えて支援をすることができた。
・　完全不登校だった児童１名が、ふれあいひろばに、放課後登校できるようになった。
・　週に一度、放課後に担任と個別学習を行っている児童もおり、学習に関しても支援ができつつある。
・　「情報共有シート」によって、不登校児童の現状把握が正確にできるようになった。
・　年度途中から長期欠席になった児童に関しては、学年主任会や「情報共有シート」により情報が挙がり、関係職員、管理職が連携し、早期発見・支援（SC や SSW に繋げる）ができた。

●課題

・　ふれあいひろばに関わる児童の中には、個人の特性に応じた支援が不十分なとき、教室での授業を受けなくなったり、その課題に取り組まなくなったりする傾向がある。特別支援の視点も取り入れ、個別の課題や目標に応じた指導・支援の在り方を研究し続けることが必要である。